

IDDNewsletter.....10

2023
October



特集

高聾祭ディスプレイとコンセプチュアル・アート

例年、7月下旬に本科で行われる学校祭「高聾祭」において、専攻科情報デザイン科では専門科目を総合的・横断的に学ぶ授業内容として「高聾祭ディスプレイ」を行っています。この「高聾祭ディスプレイ」では、学生が自主的な企画を行うのではなく、教師側でテーマを設定し、そのテーマの枠組の中で学生に創造性を発揮させることを重視しています。今年度は、「コンセプチュアル・アートとAR」というテーマとしました。新旧の観念的表現の対比は、単に技術的な方法論を超え、深く、濃厚に、人間の認識の在り方そのものを問いかける表現となりました。

高聳祭ディスプレイとコンセプチュアル・アート

例年、7月下旬に本科で行われる学校祭「高聳祭」において、専攻科情報デザイン科では専門科目を総合的・横断的に学ぶ授業内容として「高聳祭ディスプレイ」を行っています。この「高聳祭ディスプレイ」では、学生が自主的な企画を行うのではなく、教師側でテーマを設定し、そのテーマの枠組の中で学生に創造性を発揮させることを重視しています。

今年度は、「コンセプチュアル・アートとAR」というテーマとしました。新旧の観念的表現の対比は、単に技術的な方法論を超え、深く、濃厚に、人間の認識の在り方そのものを問いかける表現となりました。

1960年代から1970年代に流行した、前衛的芸術活動だったコンセプチュアル・アートが、50年ほどの月日を経て、7月下旬の今年の高聳祭ディスプレイに出現した。そしてそれは、ARという新たな表現手法をも取り込んだ、画期的なものであった。コンセプチュアル・アートに関連した日本のアーティストとしてオノ・ヨーコがあげられる。また、オノ・ヨーコは、ビートルズのジョン・レノンのパートナーとしても知られる。二人の出会いは、1966年、ロンドンでのオノ・ヨーコの個展で、ジョン・レノンがオノ・ヨーコの作品に触れたことがきっかけである。部屋の中央にある白い脚立の上に、天井から虫眼鏡がぶら下がっており、それで天井に貼られた小さな文字を見ると「YES」と書かれていた。これを見たジョン・レノンは、オノ・ヨーコのもつ感性に魅了されたと言われる。筆者は、若い頃、このエピソードを聞いてそれが芸術なのかと疑問に思った。どうしても古典的な絵画や彫刻などに囚われており、前衛芸術を受け入れる素養がなかった。しかし、今年の高聳祭ディスプレイを経験して、前衛芸術というものを実感した。「実物」「写真」「テキスト」による一連のコンセプチュアル・アート作品とは別に、デジタル技術を駆使したARをも取り込む展示となり、野心的であった。筆者にとっても刺激的な展示であった。

近年、VRという言葉をよく耳にし、頭に専用の大きなゴーグルをつけたデモンストレーションの光景をよく目にする。

しかし、それは特殊な装備を身につけて体感する、非日常的なものだ。仮想現実VR(Virtual Reality)は、現実には存在しない仮想的な世界をデジタル技術で表現するものだし、拡張現実AR(Augmented Reality)は、実際に見える光景にデジタル化した要素を加えて現実世界を拡張するものである。今回の高聳祭ディスプレイで制作されたARの作品を見ると、一見、普通に見えて、よくみると、「おおっ！」と普通ではない現象であることに気がつく。本科から専攻科へ続く渡り廊下に展示された、「実物」「写真」「テキスト」で表現された日用品を題材にしたコンセプチュアル・アートは、興味深いものであった。しかし、時代こそ違えば、コンセプチュアル・アートは、きつこうしたARのような方向性を目指したのではないか。コンセプチュアル・アートの第一人者のジョセフ・コッススがARを見たならば、きっと驚嘆するだろう。

専攻科の学生たちは、高聳祭ディスプレイでARについて扱うことを知った後、もの凄い勢いでこの技術をマスターした。日頃から、タブレットやアドビのイラストレーターやフォトショップに触れていることもあり、スマホ時代の現代っ子である専攻科の学生たちは、この新しい技術をあっという間に吸収し自分のものにできた。筆者も若い頃は新しいものが大好きで、ウォークマン、一眼レフカメラ、パソコンなど、いろいろなものに熱中したことを思い出した。



「実物」「写真」「テキスト」による解説という、コンセプチュアル・アートの概念にそった作品。この他にも、なべ、網戸、のぼり、スツール、長テーブル、植木鉢、エプロンも制作し展示された。

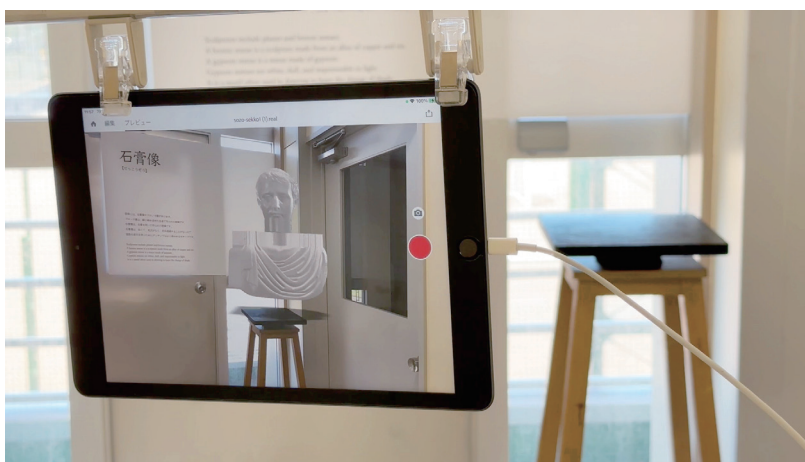


山田正紀『人喰いの時代』の市立小樽文学館の展示とコラボした、ボンネットバスの AR 作品。

①茂みからバスが近づいてくる。②だんだんバスが大きくなる。③バスは横を向き……。④ぐるっと一周すると、ボンネットバスはバックで戻っていく。



「フォント」のパネルの前には何も無いが、タブレットを見ると、カラフルな明朝体のフォントが、大きくなったり、縮んだり、回転したりしながら動いている。



実際のスツールの上に石膏像はないが、タブレットを見ると、ふわふわ浮遊しながら回転する石膏の動きを見ることができる。

Contents

2-3

特集

高聾祭ディスプレイとコンセプトアート・アート

例年、7月下旬に本科で行われる学校祭「高聾祭」において、専攻科情報デザイン科では専門科目を総合的・横断的に学ぶ授業内容として「高聾祭ディスプレイ」を行っています。この「高聾祭ディスプレイ」では、学生が自主的な企画を行うのではなく、教師側でテーマを設定し、そのテーマの枠組の中で学生に創造性を発揮させることを重視しています。今年度は、「コンセプトアート・アートとAR」というテーマとしました。新旧の観念的表現の対比は、単に技術的な方法論を超え、深く、濃厚に、人間の認識の在り方そのものを問いかける表現となりました。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では、全国から学生を募集しております。寄宿舎があり、道内外に関わらず入舎可能です。土日祝日も開校しておりますので、遠方からの入舎も安心です。ご興味のある方は是非本校にご連絡ください。詳しくは、本校 web サイトにて情報デザイン科のページを御覧ください。

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「標準教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注1)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注2)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注3)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

October 2023 10

IDDNewsletter

October 2023

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注4)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。注2：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注3：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。注4：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本語を母語とする「ろう者」と聞こえづらくても日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かります。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。